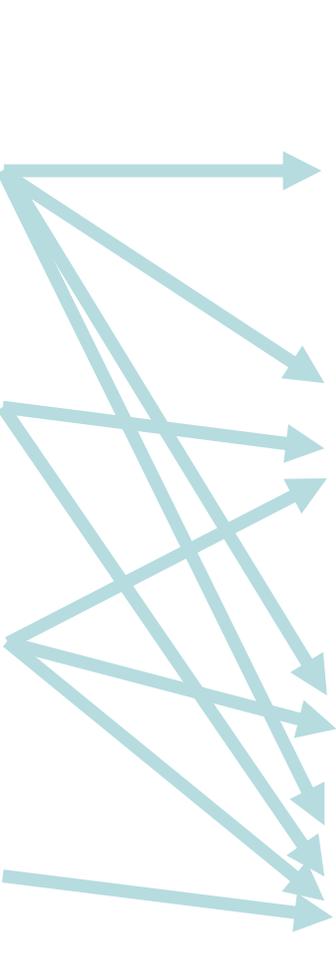


## 第5回WGでの主なご意見とこれを踏まえた論点 (人材育成)

---

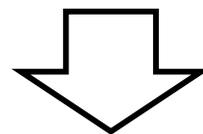
# 人材育成に係る現状と課題

主体	育成対象	現状と課題	主な論点
<p>行政</p> 	<p>行政職員、 発注者</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• DX等の施策に特化した研修もある</li> <li>• 研修以外の人材育成の取組は充実性に乏しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 技術力向上に自発的に取り組む環境整備ができていないのではないか</li> <li>• 育成された人材が活躍できる場が提供できていないのではないか</li> <li>• 新技術を積極的に活用する発注者が必要ではないか</li> </ul>
<p>業界</p>	<p>民間技術者 〔 専門 若手 外国人 〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 従来からの内容が中心で充実性に乏しい</li> <li>• 各団体に委ねられている</li> <li>• 人材育成に十分な投資がなされていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 技術力向上に自発的に取り組む環境整備ができていないのではないか</li> <li>• 育成された人材が活躍できる場が提供できていないのではないか</li> <li>• 人的資本投資を促すべきではないか</li> </ul>
<p>民間</p>	<p>異分野からの 人材</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 人材育成に十分な投資がなされていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 建設分野のための技術開発を行う人材を発掘するべきではないか</li> </ul>
<p>学</p>	<p>学生、生徒等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 建設業の魅力発信、向上に努めている</li> </ul>	<p>(      —      )</p>

## 論点：人材育成について

建設業界において、担い手不足が深刻化する中、建設インフラの整備や管理にイノベーションを起こす人材を育成する必要がある。技術者がみずから主体的に知識や経験を向上させるためにどういったことが必要か。

- ① 技術者が自発的に知識の向上や経験できる機会を増やすために国、業界、企業がそれぞれ取り組むこと。
- ② 企業が人的資本投資に積極的に取り組むことを促すために国が留意するべき点。
- ③ 異分野からの人材を育成するために国や業界、企業が取り組むべきこと。



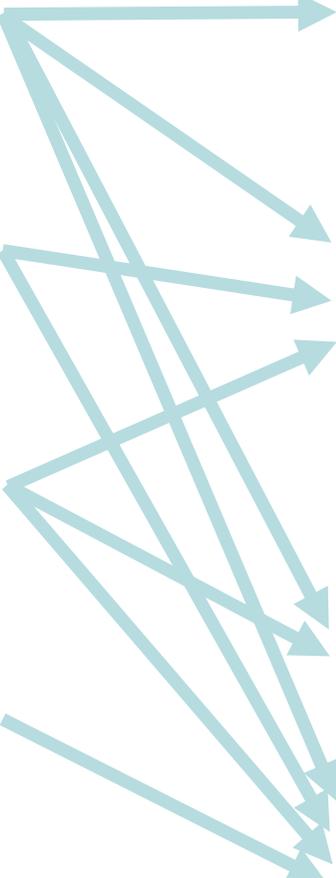
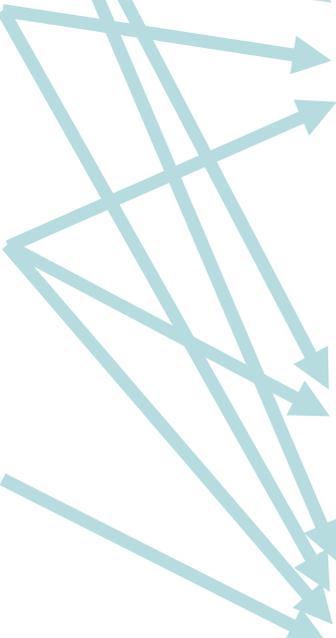
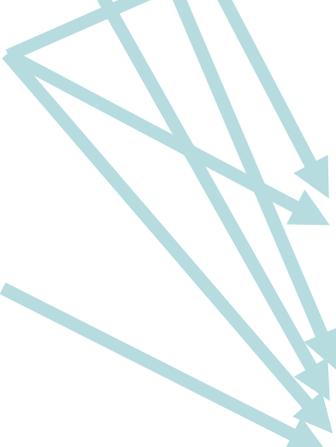
上記の論点についてご議論いただきたい。  
また、この他、議論すべき論点があれば、お示しいただきたい。

## 第5回WGにおける主な意見(人材育成)

### <人材育成について>

- 建設分野の育成において、土木・建築の理論とICTの両輪が必要で、最先端の技術に対してどう向き合うか、業界で高めていく必要がある。
- 北海道開発局と北海道大学が共同でICT利活用のためのプロジェクトを進めており、30～40代の職員を対象としてスキルアップのための教育を受けている事例があるため参考にされたい。
- どんな人材が求められているのか、育てるべき人材をどういうターゲットにしたらよいのか、明確にして議論した方がよいのではないか。
- これまでは知識の習得が主であったが、経験をベースに培われるスキルの習得が必要である。またイノベーションを生み出す人材の育成が必要である。それらのためにどのような機会を提供するかを考える必要がある。
- 実際のプロジェクトのような機会を経験する過程で、知識を体系化し、共有するようなことが必要である。
- イノベーションを起こす人材の育成のためには、育成方法の抜本的な見直し、今までと違うやり方を取り入れていかないと育たない。
- イノベーションに繋がる人材の育成のためには、人材の流動化や多様性が必要である。

# 人材育成に係る現状と課題(第5回WGを踏まえて更新)

主体	育成対象	現状と課題	主な論点
行政 	行政職員、 発注者	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>どんな人材を育成すべきか、目標が不明確である</b></li> <li>• DX等の施策に特化した研修もある</li> <li>• 研修以外の人材育成の取組は充実性に乏しい。<b>従来のやり方はイノベーションを起こす人材育成ではない</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 技術力向上に自発的に取り組む環境整備ができていないのではないか</li> <li>• 育成された人材が活躍できる場が提供できていないのではないか</li> <li>• 新技術を積極的に活用する発注者が必要ではないか</li> <li>• <b>イノベーションを起こす人材、新技術を活用する人材の育成方法が必要ではないか</b></li> </ul>
業界 	民間技術者 〔 専門 若手 外国人 〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>どんな人材を育成すべきか、目標が不明確である</b></li> <li>• 従来からの内容が中心で充実性に乏しい。<b>従来のやり方はイノベーションを起こす人材育成ではない</b></li> <li>• 各団体に委ねられている</li> <li>• 人材育成に十分な投資がなされていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 技術力向上に自発的に取り組む環境整備ができていないのではないか</li> <li>• 育成された人材が活躍できる場が提供できていないのではないか</li> <li>• 人的資本投資を促すべきではないか</li> <li>• <b>新技術を積極的に活用する民間技術者が必要ではないか</b></li> <li>• <b>イノベーションを起こす人材、新技術を活用する人材の育成方法が必要ではないか</b></li> </ul>
民間 	異分野からの 人材	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>どんな人材を育成すべきか、目標が不明確である</b></li> <li>• 人材育成に十分な投資がなされていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 建設分野のための技術開発を行う人材を発掘すべきではないか</li> <li>• <b>イノベーションを起こす人材、新技術を活用する人材の育成方法が必要ではないか</b></li> </ul>
学 	学生等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 建設業の魅力発信、向上に努めている</li> </ul>	(      -      )

# 今後の情勢を踏まえた方向性について

## <今後の情勢について>

### ■ 育成方法に関すること

- ・人材不足が懸念される中、最新技術の導入を進めるためには、業界全体で技術者の育成体制を充実していく必要がある。
- ・これまでは知識の習得が主であったが、経験をベースに培われるスキルの習得が必要である。

### ■ 求められる人材に関すること

- ・人材の不足が深刻化する中、省人化のためのDX技術の活用が必要で、DX人材の育成が一層重要である。
- ・どんな人材が求められているのか、育てるべき人材のターゲットを明確にしていく必要がある。

### ■ イノベーション人材に関すること

- ・イノベーションを生み出す人材への育成が必要で、育成方法を抜本的な見直し、今までと違うやり方を取り入れていかないと育たない。
- ・特に人材の流動化や多様性が重要である。



## <政策の方向性>

- a) 業界全体による経験をベースに培われるスキルの共有化について
- b) DX推進のため、DX人材像の明確化とその能力を活用する機会の創出（国交省発注工事でのデジタル技術の活用等）について
- c) イノベーション人材像の明確化とその能力を活用する機会の創出について

## 第5回WGにおける主な意見を踏まえた論点(人材育成)

建設業界において、担い手不足が深刻化する中、建設インフラの整備や管理にイノベーションを起こす人材、**新たな技術を活用する人材**を育成する必要がある。技術者がみずから主体的に知識や経験を向上させるためにどういったことが必要か。

① 技術者が自発的に知識の向上や経験できる機会を増やすために国、業界、企業がそれぞれ取り組むこと。

- ・これまでは知識の習得が主であったが、経験をベースに培われるスキルの習得が必要であり、プロジェクトを経験する過程で、知識を体系化し、共有するようなことを如何に取り組むか。
- ・育成された技術者を活用するための仕組みをどのように構築するか。

② 企業が人的資本投資に積極的に取り組むことを促すために国が留意すべき点。

③ 異分野からの人材を育成するために国や業界、企業が取り組むべきこと。

- ・イノベーションに繋がる人材の育成のために、人材の流動化や多様性を確保すること
- ・育成方法の抜本的な見直し、今までと違うやり方を取り入れていくこと



上記の論点についてご議論いただきたい。  
また、この他、議論すべき論点があれば、お示しいただきたい。